

街道を歩く

中山道：馬淵一野洲(小篠原)

朝鮮通信使街道：近江八幡一野洲(富波乙)



祇王祇女

平安時代橘長次郎時長の娘、祇王・祇女は保元の乱で父が亡くなったため母と共に京都出て白拍子になり平清盛公に仕え愛されるある日清盛公から“何か望むものないか”と云われたので“故郷の人々が水不足で苦しんで故郷に水路を”とお願いした。清盛公は野洲川から水路を引いた。それでこの辺りの水不足が解消したと云われるこの水路を祇王井川と云う祇王21才、祇女19才の時



祇王祇女屋敷跡



●●祇王祇女屋敷跡

●●祇王寺
平家物語の祇王祇女を祀る

●●土安神社
祇王井川工事の神祭る

●●永原御殿跡

滋賀県にはここ永原、柏原、水口、伊庭に御殿があった



生和神社

円山古墳：円墳、直径27m、高さ8m、6C初
甲山古墳：円墳、直径30m、高さ10m、6C中
天王山古墳：前方後円墳、長さ50m、6C



金台寺 本願寺八幡別院

本願寺大1代門主顕如上人の創建
豊臣秀次が八幡城下町を開いた時に安土から移す。
関ヶ原戦後徳川家康上洛の時宿泊
朝鮮通信使の昼食所ともなる
本堂、鐘楼、表門は県文化財

願成就寺

推古27年(619)聖徳太子の勅願により48カ寺の最後に開基されたのでその名がついたという日牟礼神社の別当寺。元は八幡山にあった豊臣秀次の築城の時ここに移動
本尊十一面観音は國重文



大笹原神社

生和神社(祭神藤原忠重公)

忠重は平安中期藤原氏の荘園富波荘の領主。開拓の守護神として祀られる。本殿末殿共鎌倉時代のもの國重文

小篠原

常夜灯

家棟川

銅鐸博物館

富波乙

富波甲

屋棟神社

永原交番

常夜灯

小篠原

富波乙

富波甲

富波乙

中山道：近江路9宿一⑦

八幡山

日牟礼八幡宮

(祭神菅田別尊、比売神、息長足姫尊)
創建は平安時代といわれ、源頼朝が近江守護職に命じ拝殿を建造させたと伝えられる現在のの宮は豊臣秀次が上宮、下宮を合併させたもの。家康をはじめ徳川家の尊崇も篤かった

願成就寺

小船木町

土田町

中村町

近江八幡

豊臣秀次が天正13年(1585)八幡山に築城した時安土城の城下町をそっくり移した町屋が元になる碁盤目状の街並。城の防備と琵琶湖を往来する船を寄港させるために八幡堀を造る商業が盛んになり地場産業も発達した奥島草のい草による畳表、灯心の製造。八幡蚊帳、麻布、綿布。江戸後期には八幡瓦の製造盛んになる

白鳥川

小船木本町

加茂町

田中江町

鏡(間の宿)

古代東山道の宿駅であった江戸時代は武佐と守山が宿であったが江戸後期に武佐宿が鏡に對しが旅人の止宿差し止めの訴え出している、又本陣、脇本陣跡があることから宿機能はあったと思われるここ鏡は義経が東下りの時宿泊し、元服したところといわれる

鏡神社

義経元服池

本陣跡

鏡

宗盛洞塚

義経宿泊館跡

鏡神社

義経元服池

本陣跡

鏡

宗盛洞塚

義経宿泊館跡

鏡神社

義経元服池

本陣跡

鏡

宗盛洞塚

義経宿泊館跡

鏡神社

義経元服池

本陣跡

鏡

宗盛洞塚

義経宿泊館跡

鏡神社

義経元服池

本陣跡

鏡

宗盛洞塚

義経宿泊館跡

鏡神社

義経元服池

本陣跡

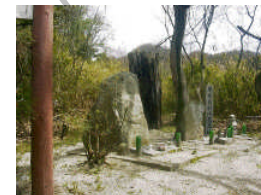
鏡

宗盛洞塚

義経宿泊館跡

鏡神社(祭神天日槍命)

天日槍命は新羅國の王子との伝え多くの技術集団を連れて渡来し、その一部の須恵器(陶)造りの工人を配置した。鏡山北山麓には近江最大の古窯跡がある。6C-8Cに活発であった。近くに須恵という集落がある。本殿は室町中期、蛙又多用前室付三間社。鞍馬山を脱出した牛若丸は平家の追手が逃れるために東男に変装、烏帽子を作らせ源九郎義経と名乗って元服したところとされ、謡曲「烏帽子折」では能の前半はここが舞台。後半は赤坂、盗賊熊坂長範に襲われるが退治して奥州へ。境内に義経烏帽子掛松、近くに元服池がある



宗盛洞塚



義経宿泊館跡

平成 16 年 01 月 20 日

あきやま